

令和3年度

オンライン講座

第5回

旧日向別邸 II

05

2021  
6月  
No.05

熱海ブルーノ・タウト連盟

# タウト塾@熱海



- 関わりつた人間像
- 第一期工事
- 第二期工事

# 旧日向別邸 講座リスト

No.4	No.5	No.6	No.7
<b>総論</b>  昭和8年~11年の時代 日向・熱海・日本 昭和8年~11年の偶然 タウトと旧日向別邸 建設立地 海への眺望 旧日向別邸の眺望 眺望 朝と夜 3回の工事と3つの目線 屋上庭園 タウトの設計受託 タウトの躯体変更 関わった特異な人々 旧日向別邸 3-1の恩恵 旧日向別邸の今	<b>各論-1</b>  <b>関わった人間像</b> 三人の人物像 日向利兵衛 渡辺仁 B・タウト 他の関係者 佐々木嘉平 柳沢健 吉田鉄郎 <b>第一期工事</b> 上屋の構成1 居間と暖房 上屋の構成2 浴室・温泉 <b>第二期工事</b> 土留めと躯体 屋上庭園	<b>各論-2</b>  <b>第三期工事</b> 平面構成 躯体変更 風洞 階段 広間 アルコーブ 社交室 1 社交室 2 冗談 洋風客間 1 洋風客間 2 和風客間 1 和風客間 2 5.5畳間 ベランダ 諧調と諧調の基準 家具 照明器具 祝い	<b>各論-3</b>  <b>その後 恩恵</b> 亡き後から 日本カーボード工業 篤志家の出現 熱海市取得 重要文化財の取得と意味 取得に当たっての工事 docomomo100選 世界遺産 重要文化財 1 重要文化財 2 保存と活用 初島小学校短歌 クリステイーネ・シリー 多賀そば

# 旧日向別邸の朝 昼 夜



10月 サンビーチ薪能

# 関わった特異な人々

## 三期工事



三原徳言



タウト紹介：柳沢健



施主：日向利兵衛

## 二期工事

上屋・土留め  
屋上庭園  
(株) 清水組

## 一期工事



上屋設計：渡辺仁



棟梁：佐々木嘉平



地下室設計：B.タウト



設計支援：吉田鉄郎



木下奎太郎  
(伊東出身)

# 日向利兵衛

## 旧日向別邸の施主



- 1874～1939（明治 7 年～昭和 14 年） アジア貿易商人  
1874（明治 7 年）大阪の実業家「唐木屋」の一人息子で誕生。
- 15 歳で香港に渡り、現地の日本人商会に勤め帰国。
- 第三高等学校、東京商業学校（現一橋大学）を卒業し同年「唐木屋」を相続する。美術、建築に造詣が深く、語学力と幅広い人脈を生かし貿易関係で活躍をする。
- 「唐木屋」は、紫檀、黒檀、鉄刀木（タガヤサン）などの銘木を輸入し、家具を製造販売。高級家具、茶室や数奇屋造りの飾り棚や置家具など、工芸製の高い製品を扱った。
- また、当時重要な輸出品だったマッチの原料であるリンを輸入し、アジア貿易に足がかりをつけ、貿易商人として大をなした。
- 日向の特徴は、技術の指南や相談役などフィクサー的役割を果たすと共に、東洋 精糖、日新火災といったアジアがらみの企業の経営者として関わった。
- 旧日向別邸完成三年後、昭和 14 年 9 月、65 歳で逝去した。

# 唐木（からき）

- 唐木屋の「唐木」は、熱帯地方から日本への輸入銘木全般の総称で、昔の中国＝唐を経て輸入したことからこう呼ばれた。中でもシタン、コクタン、タガヤサンは唐木三大銘木といわれる。
- 高級建材を扱ってきた日向は、旧日向別邸の日本間の天井に「神大杉」の使用を求めた。神大杉は、何百年もの長い間土中に埋もれ、掘り出された杉で貴重な材料。



唐木財の工芸品



箱根湿性花園の神大杉



日本間の神大杉

# 熱海の二つの別荘



# 渡辺仁（わたなべじん）：上屋設計



渡辺仁（わたなべじん）1887-1973

近代日本の建築家。作品のスタイルは当時の建築家としては珍しく、歴史主義様式のほか、表現派、帝冠様式、機能 / 合理主義様式、初期モダニズムと多岐にわたっている。

主要作品には服部時計店、ホテルニューグランド、東京国立博物館、第一生命相互館などがある。1887年 東京で生まれる。東京帝国大学建築学科を卒業。鉄道院、逓信省に勤務。

1920年 独立し、渡辺仁建築工務所開設。130棟ほどの住宅を設計しているが現存は3棟のみ。

旧日向別邸は数少ないその一つの現存住宅として重要である。



# 銀座和光



出展：セイコーハートビートマガジン「銀座和光」改修秘話、90年前の思いを引き継ぐ名建築より

# ホテル ニューグランド他



東京国立博物館



原邦造邸（原美術館）



1927年の開業時と変わらぬ佇まいの本館



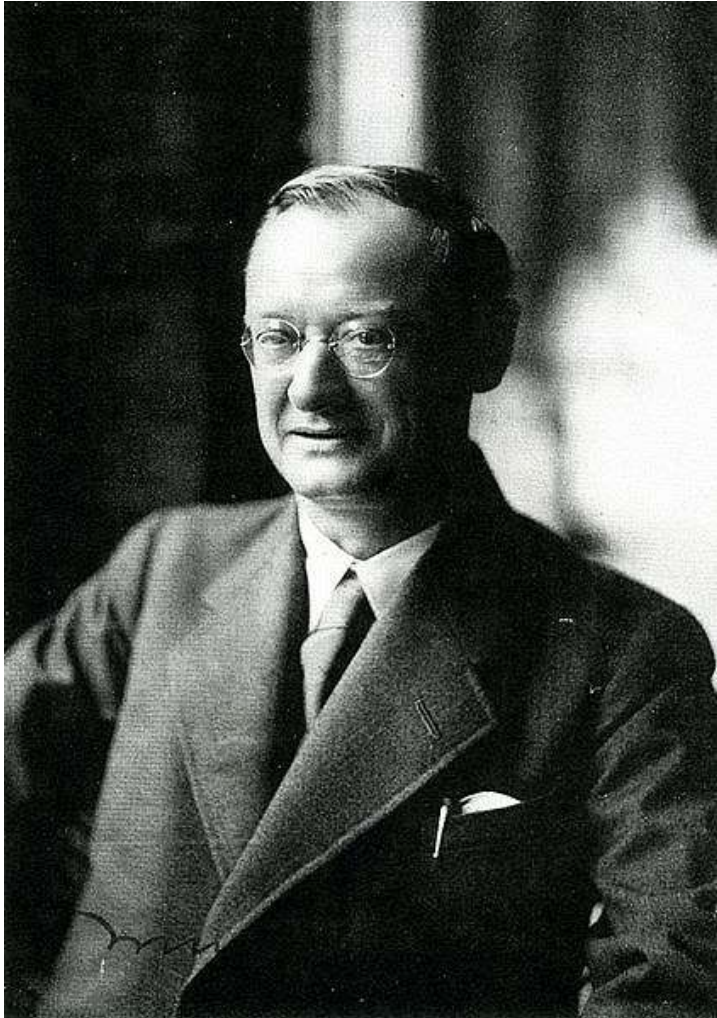
本館の大階段はニューグランドのシンボリック的存在



## ホテル ニューグランド 山下公園 HPより

1927（S2）年開業時に銀座和光などを設計した渡辺仁によるもので、クラシックホテルの代表。マッカーサー元帥やチャーリー・チャップリン、ベーブ・ルース宿泊。横浜市認定歴史的建造物、近代化産業遺産

# ブルーノ・タウト：地下室設計



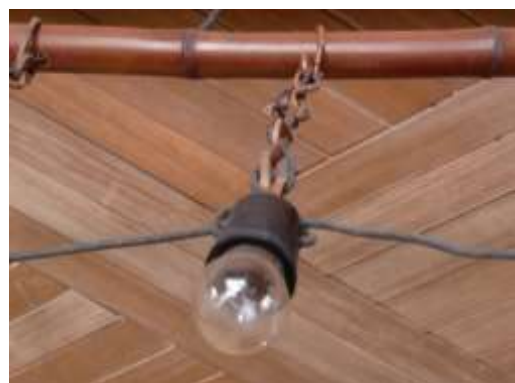
- **ドイツ**の建築家。ケーニヒスベルクにて誕生。生地の建築学校を終え、T.フィッシャーに師事、ベルリンに設計事務所を開設。13年のライプチヒ国際建築博覧会で「**鉄の記念塔**」、14年ケルンのドイツ工作連盟展で設計した「**ガラスの家**」によって一躍有名となり、マクデブルク市の建築土木課長となり**色彩宣言**を試みて注目された。24年ベルリンに帰り、1万2000戸にのぼる集合住宅である**ジードルング**を設計した。ベルリンのシャルロッテンブルク工科大学教授。現主義の代表とされる。
- 昭和8年シベリアを経て来日、**日本**の建築と美術に深い理解を示し、仙台、高崎などで工芸を指導した。日本での建築に熱海の**旧日向別邸**、麻布の大倉邸がある。ほか、『ニッポン』(34)、『日本文化私観』(36)など日本に関する著作も多く、京都の桂離宮に近代建築に通じる美があることを説いて、日本の建築家に大きな影響を与えた。
- 36年**トルコ**のイスタンブール芸術大学教授となり離日した。

# ブルーノ・タウト 作品紹介 建築

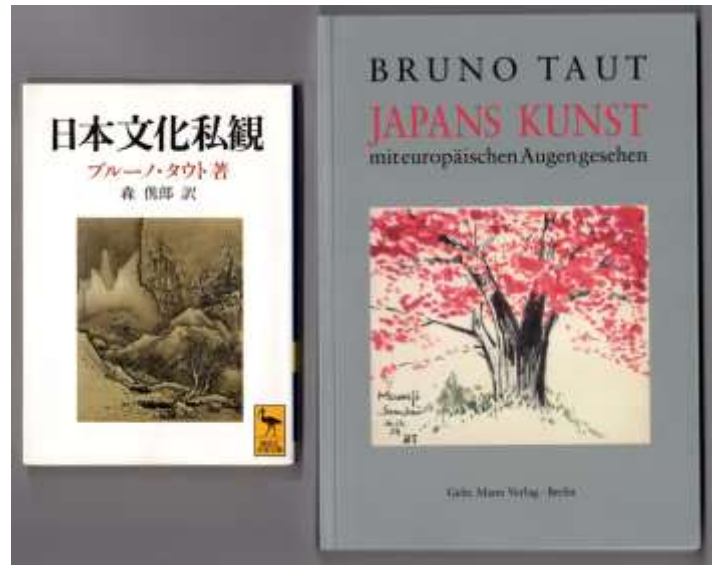
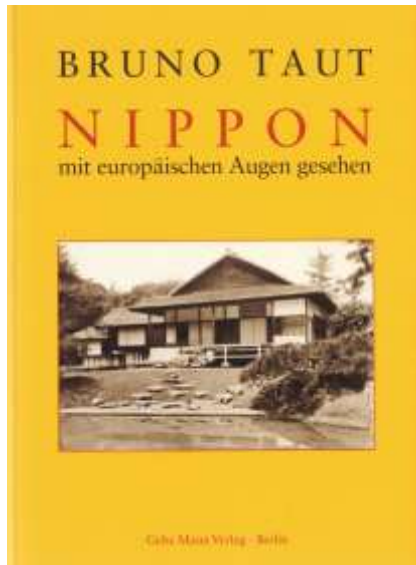


# 工芸品 家具 照明器具

## 銀座ミラテス



# 書籍



# 日本での活動年表

来日したブルーノ・タウトの活動が、時系列に整理された書籍がある。

「ブルーノ・タウト 桂離宮とユートピア建築」

2007年に行われた「ブルーノ・タウトアルプス建築から桂離宮へ」展でワタリウム美術館が編集、出版したもの。

写真が中心で分かりやすくまとめられている。その中での年表を掲載する。



1933	1934	1935	1936
滞在 07.21~09.13 葉山	11.10~03.07 仙台	03.07~08.01 東京	1934.06.01~1936.10.08 高崎
旅行 京都 05.03~05.21 東京 05.21~06.04 京都 06.10~07.21	東京 09.14~09.25 京都 12.15~02.08	東京 03.07~04.08 京都 04.08~05.15	京都 11.01~12.19
建築 05.04 桂離宮拝観記録		05.07 桂離宮2回分の拝観 06.09 『高松桂離宮』完成	
出版 06.01 『ニッポン』増刊書院と出版合巻		06.01 『ニッポン』小出版 06.13 『ニッポン』が 日本芸術家協会 推薦図書になる。	06.01 『日本文化私観』 起稿 01.23 "Houses and People in Japan" 起稿 10. 出版 07. 出版
設計 10.01 『生野山/湯小/都市計画』大森電気軌道(株)から設計打診 1934.04 概略計画に決定		03.04 『川崎邸』川崎氏より依頼。 03.25 設計行合せ。色紙せす。	04.05 『日向別荘』を日向氏より設計依頼 05.08 『大森邸』インテリア設計依頼を受ける 09.20 竣工 1936.04. 竣工
タウトが関わった工務指導 1933.11~1934.03 仙台工務指導所で顧問 1934.05~1935.06 大森邸で顧問		1934.08~1936.03 井上工務で顧問 井上興一郎とともに、銀座「ミラリス」開店	
日本 1933 国際建築雑誌	1934 満洲国市政実務	1935 天皇御前顧問となる	1936 ロンドン建築会議出席。二二六事件、日独防共協定
ドイツ 1933 ナチス政権成立。国際建築雑誌。		1935 海軍機官官。英陸海軍協定。	1936 ラインラント選駐

# 地下室設計支援：吉田鉄郎



- 吉田鉄郎（1894—1956）
- 東京中央郵便局（1931）や大阪中央郵便局（1939）などの日本近代建築の名作を残した「逓信省の建築家」
- 活躍した1920年代から1950年代初頭は、日本に限らず世界中で、いかに「近代」を空間的に、建築的に表現するかが問われた時代でした。
- そこで重要だったのは、ヨーロッパに端を発するモダニズムを模倣するのでも、それを土着の伝統と折衷するのでもなく、モダニズムと伝統との間に橋を架けわたすことでした。
- この「架け橋」によってモダニズムが定着し、同時に伝統が新たに再生してきます。
- 初期はドイツ表現主義やエストベリなど北欧建築の影響を受け、後にモダニズム建築の傑作を生み出した。ブルーノ・タウトが来日した際は桂離宮など各地を案内した。タウトは吉田の設計した東京中央郵便局を、モダニズムの傑作と讃えました。
- 1953年、著書「日本の建築」で日本建築学会賞を受賞。これらの吉田の著作はドイツで出版され、日本の建築を欧米諸国に伝える一助となった。



# モダニズム～伝統の架け橋

- 本展では、吉田の住宅作品に鮮明に現れるモダニズムと伝統の相克と、この両者への「架け橋」を追求する彼独自の思想と手法を明らかにしようと努めています。そして、逓信省営繕課の一員というよりもひとりの建築家としての吉田の思想と手法の展開をたどるために、住宅と逓信省関係の建築の他にコンペ作品や記念碑などにも着目し、彼がドイツ語で刊行した『日本の住宅』（1935）などの著作や、ブルーノ・タウトらの外国人建築家との交流にも光を当てています。



A poster for an exhibition titled "Tetsuro Yoshida: Bridging Modernism and Tradition". The poster features large, stylized Japanese characters "の近代" (Modernism) on the left and "吉田鉄郎" (Yoshida Tetsuro) on the right. The central text reads "モダニズムと伝統の架け橋" (Bridging Modernism and Tradition). The poster includes the name "Tetsuro Yoshida" and the subtitle "Bridging Modernism and Tradition". It also mentions "「日本」探求の、もうひとつの建築家像" (An Architect Who Sought "Japan" in Another Way) and "An Architect Who Sought 'Japan' in Another Way". The exhibition dates are "2019.11.1 [金] — 2020.2.11 [火・祝]" and "12.29 [日] — 1.3 [金]". The poster also lists the organizing institutions: "NTTフェシリティーズ通信建築アーカイブズ" (NTT Facilities Architecture Archives, NTT Facilities) and "公益財団法人東京都市開発協会" (Tokyo Metropolitan Park Association). The venue is "文化庁 国立近代建築資料館" (National Institute of Modern Architecture, National Institute of Cultural Affairs). The poster includes a sketch of a building and the logo of the National Institute of Modern Architecture.

# 東京中央郵便局

## (代表作)

- ブルーノ・タウトが来日した際は桂離宮など各地を案内した。タウトは吉田の設計した東京中央郵便局を、モダニズムの傑作と讃えた。・タウトらの外国人建築家との交流にも光を当てています。
- Pタワーを含めた全体設計は「三菱地所設計」、KITTEの内装設計は「隈研吾建築都市設計事務所」が手がけました。



# 地下室施工：佐々木嘉平



- 佐々木嘉平（ささき かへい、社寺建築家。
- 富山県東砺波郡福野町(現在の南砺市福野)で代々宮大工であった佐々木家に生まれた。父三代目佐々木嘉平に師事、独学で技術・知識を身に付け、
- 全国各地で数々の国宝や重要文化財の修復・保存に携わった。
- 昭和46年黄綬褒章を受章。
- 熱海市 日向別邸 床の間など和室 (改修)  
(この時、この邸宅の設計者であったドイツ人建築家ブルーノ・タウトに請われ、日本的な様式に関して工事監理者として様々な助言を行った)  
吉田鉄郎は富山県出身、富山県の佐々木嘉平を旧日向別邸の工事者として推薦し工事を行った。
- 東村山市 国宝正福寺地蔵堂修復 他多数

# 国宝 正福寺地蔵堂

01



- 北条時宗が鷹狩りの折病気になった折、地蔵菩薩が現れ丸薬を飲み、眠りから覚めたら病が治ったことから地蔵尊を信仰して、弘安元年（1278年）正福寺を開創した。

# 三原徳言・みはらよしゆき タウトの唯一の弟子



- 1911年から1930年、井上房一郎が高崎で始めた工芸製品活動に参加。タウトが高崎に滞在し、工芸製品制作の指導に関わるようになった際、共同制作者、協力者として活動する。
- 日本における、タウトの唯一の弟子水原さんは、井上工業の井上房一郎が進めていた工芸運動の中心的な役割を果たした。
- 井上工芸研究所研究員となり、ブルーノ・タウトに出会う。
- 東京銀座ミラテスでマネージャーをつとめ、技術、マーケティングともに優れた才能を発揮した。
- 内村鑑三を範に、工芸や建築、芸術の中で生き、タウトの美意識を最も理解していた人と言われる。

# 熱海ホテルにて

東山に隣接する海光町  
にあった熱海ホテルで  
くつろぐタウトのグ  
ループ。

三原徳言氏の姿がある



日商部の平面図と洋風客室。中央にタウトとメリカ。他に  
ブノワ夫妻、古田鏡郎、水原徳言、高村謙三、山田馨夫妻、  
1936年9月20日。島田篤氏提供。



熱海ホテルは、1930年に山田馨の設計によるスペイン風洋館のホテル。相模湾の向こうに初島や伊豆大島を眼下にとらえることのできる展望台を持つ熱海を代表する高級ホテルであった。1945年小佐野賢治率いる国際興業が買収し連合軍最高司令官総司令部が接收した。1952年には日本人宿泊者の受け入れを再開。

# 紹介者：柳沢健・やなぎさわたけし

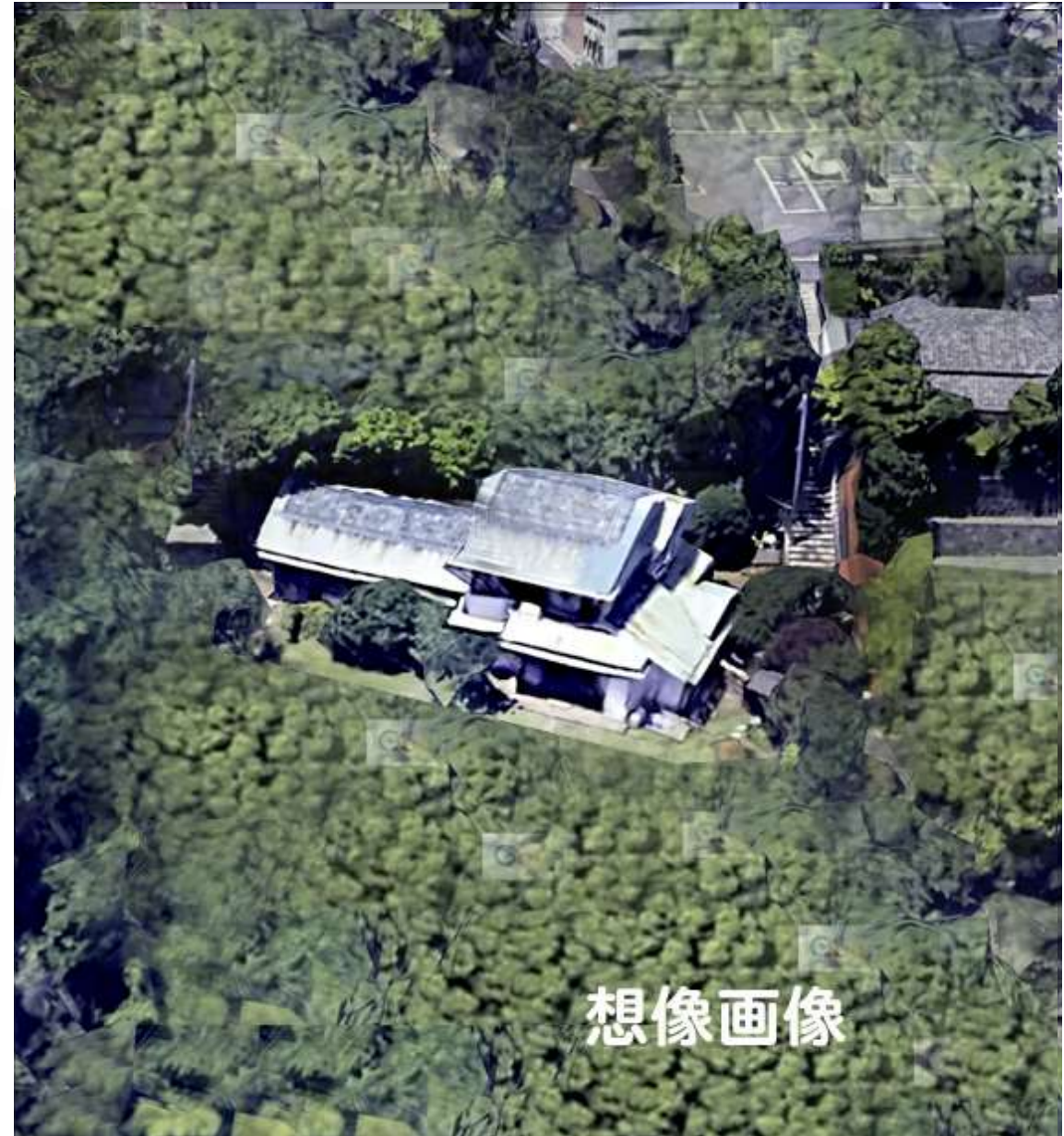
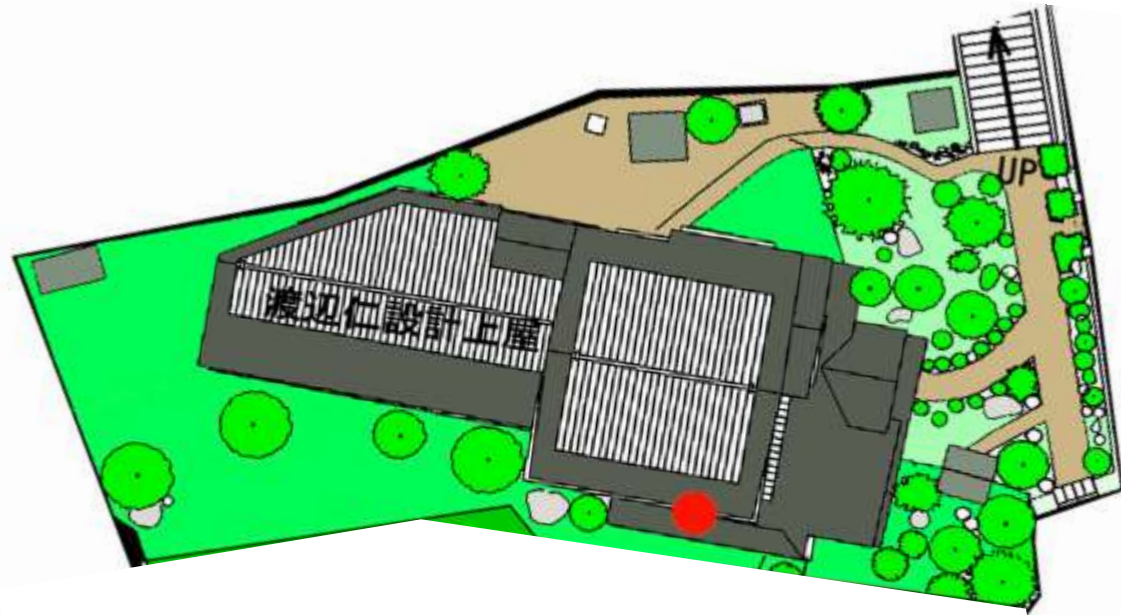


- 1889年(明治22年)11月3日 - 1953年(昭和28年)5月29日)、日本の外交官、詩人。
- 福島県会津若松市に生まれる。東京帝国大学仏法科に学び、逓信省に入り後、大阪朝日新聞社に入社した。
- その後外務省に勤務した。大学時代に島崎藤村、三木露風に師事して認められ詩人としても中央詩壇で活躍し「果樹園」、「柳澤健詩集」などを発表した。
- 向利兵衛は大変な読書家で、紹介された時点ではタウトの存在は既に知っていたよう。
- 東京銀座ミラテス（現在のショッピングセンター）でタウトがつくった電気行灯を購入していた。日向は、依頼に答えるにはもはや土地に余裕はないことから、地下室の内装デザインの依頼をすることとした。
- 行燈照明のデザインを気に入った日向氏とタウト氏は外務省外交官であった柳澤健氏を通じて出会いました。





# 一期工事 上屋の建設



# 上屋の概要・評価すべき要素

- 昭和8年10月から昭和9年7月 設計と工事が行われる。
- 上屋、門扉、玄関庭園・裏庭、温泉設備が設けられる
- 昭和9年6月から土留めの準備が行われ、土地の増設と地下への階段などへの対応、準備される
- 構造 木造二階建て 一階：広い居間を設け、床は板張り、壁は砂壁、桐格天井・組込み照明  
二階：三室の畳の間、南西の隅窓部にはベランダが設けられる
- 仕上げ 屋根：三州織部瓦葺・腰銅板葺、外壁はモルタル塗りリシン仕上げ
- 温泉設備 温泉活用の床暖房（配管はかなり特殊で不明要素が多い）  
東山地区の温泉分譲地の遺構を残す住宅として貴重な遺構である。
- ブルーノ・タウト滞在の記念碑的価値



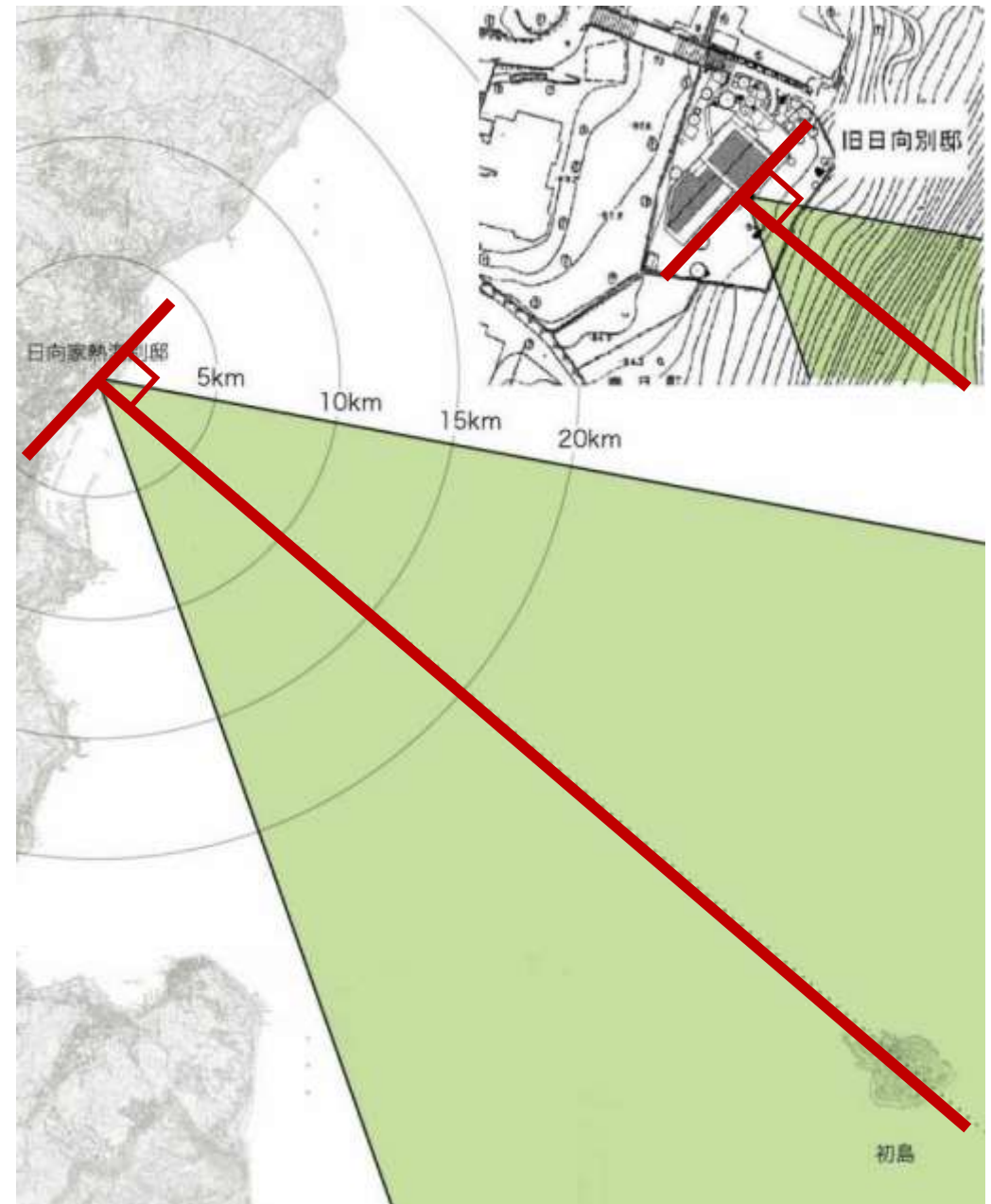
旧日向別邸 と タウトの在日																																																									
和暦	昭和8年												昭和9年												昭和10年												昭和11年																				
西暦	1933												1934												1935												1936																				
月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10															
日向別邸工事					●										●																																										
一期工事				土地取得	上屋設計・工事 10ヶ月																																																				
二期工事																																																									
三期工事																																																									
タウト在日	3日タウト来日				(3年5ヶ月)																																												15日タウト離日								

# 配置 初島を正面に見る

- 上屋建物は本来の敷地形拡に沿いながらもやや南へ傾けて配置されている
- これは採光面を考慮したと同時に、正面に初島を望む景観を意識して客間の向く方向を初島の方へ振った可能性がある

初島周辺には当時イカ釣り漁船がでていた  
タウトの日記にも、日向氏が自宅でタウト夫妻の送別会を催した時に「明るい月影が両面にきらきら充っている。海上には樹脂の漁火をもやした（魚を誘うためである）夥しい漁船（中略）『ここは詩人にとってはまことに最適な場所です』

\* 建物は初島が建物全体が正面に来るように正確に配置されている。図は平成20年3月「旧日向別邸保存活用計画」によるものです。



# 上屋の外観



南立面図 (姿図)



東立面図



断面図



竣工時の外観  
(『住宅建築図集』 株式会社清水組1939年)

# 上屋間取り

上屋建設中に地下室の計画が始まっている。

■初期の設計図は、階段がなくこの様な状態と推定。

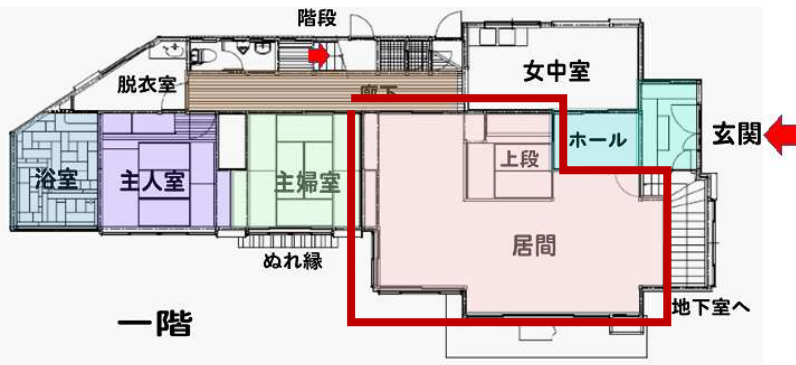


二階



一階

# 1階 居間



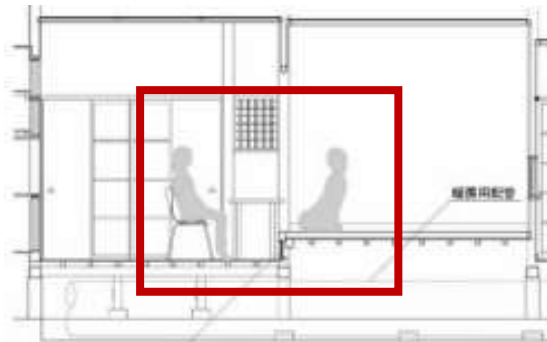
上段



天井 地下室へ影響



南側をみる

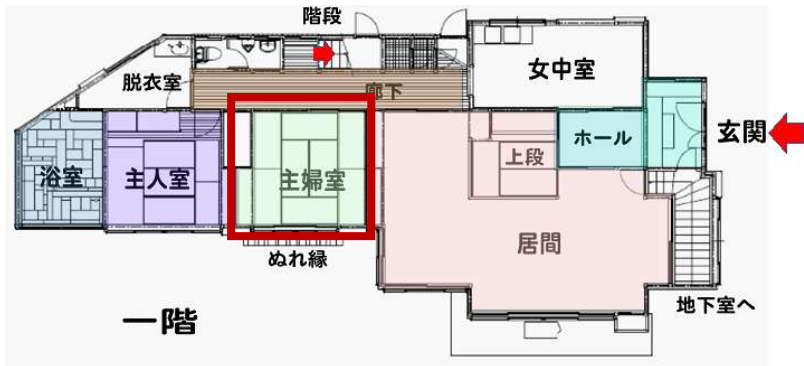


無双窓

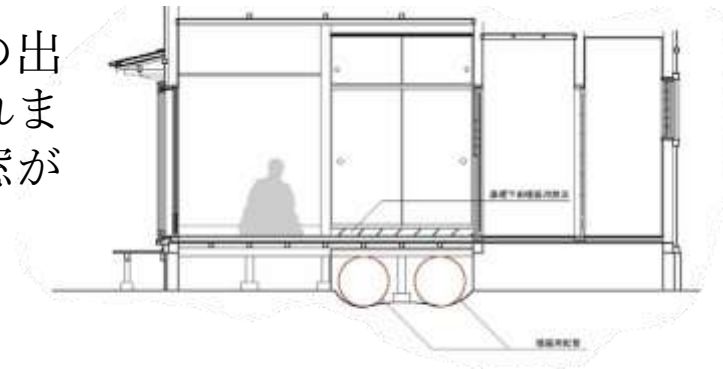


西側をみる

# 主婦室



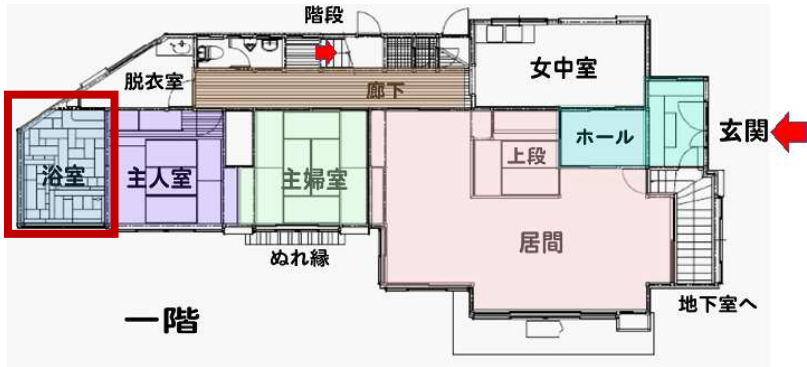
庭への掃き出し窓からは自由に庭への出入りができるようにmぬれ縁が設けられました。押入れの下部、ここにも無双窓がもうけられています。



無双窓



# 浴室



浴室は多くの変更箇所がある  
当時のものは木壁、天井などのを  
残し変化。

湯気抜きなどは、湯屋の原理の基  
づきつくられている。  
天井は船底とし 中央部に排気ガ  
ラリがもうけられている。

\*平成20年3月「旧日向別邸保存活用計画」より



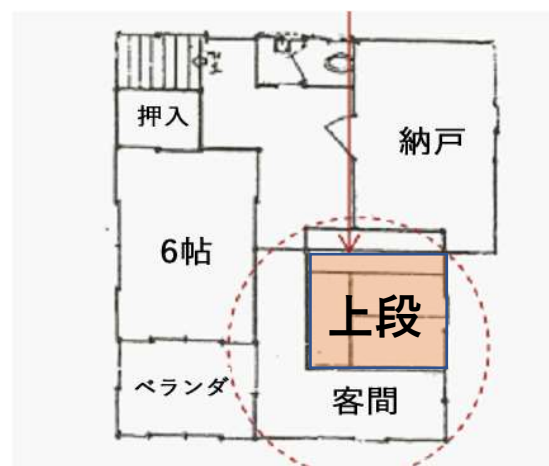
浴槽は当時とっことなっている  
広い浅い浴槽もあり興味深い



# 2階 客間



現在は8畳すべてに畳が敷かれているが、設計当時は、一階居間と同じ上段がおかれていたよう。



# 2階 和室-ベランダ

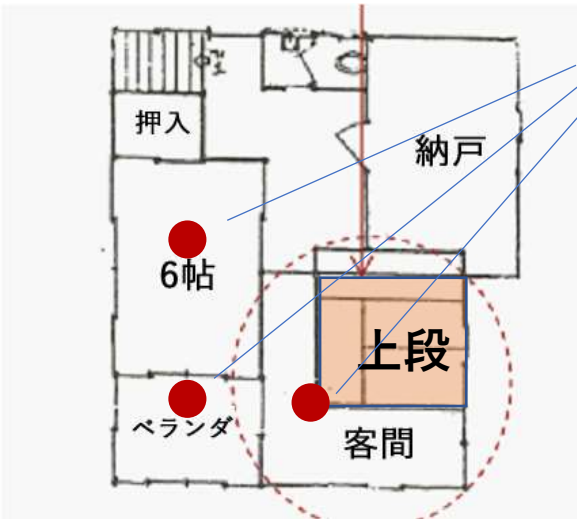


6帖間

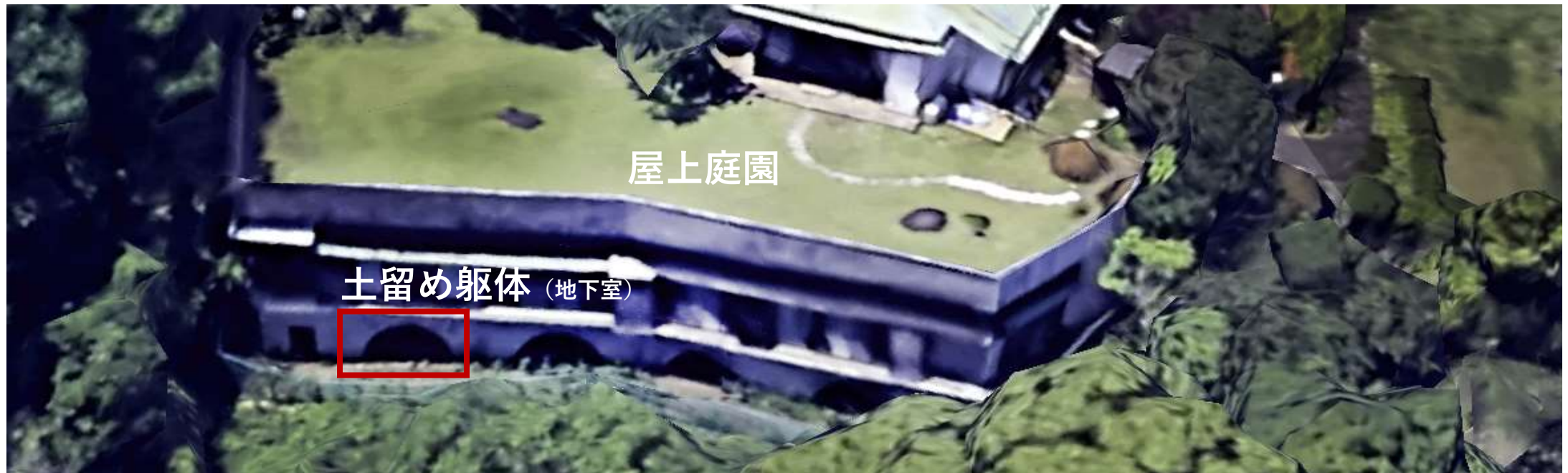
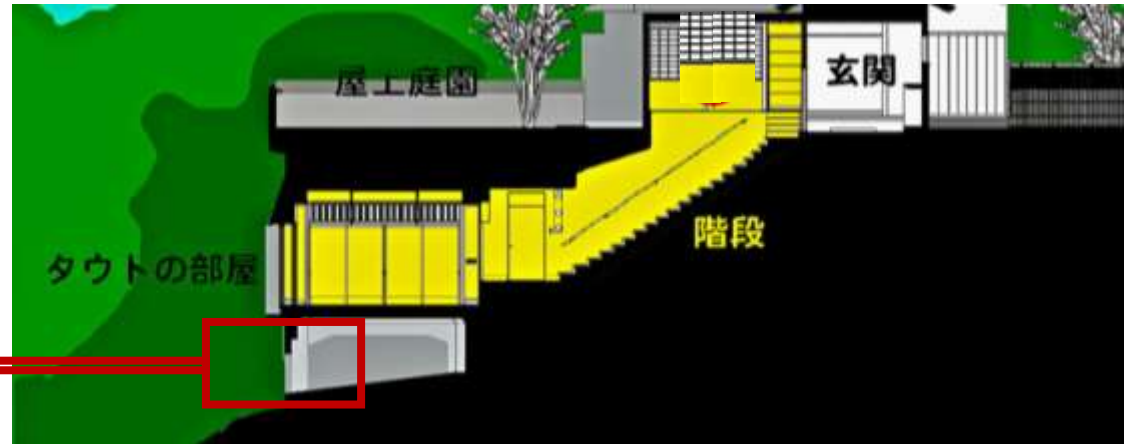


ベランダ

1935年4月16日 タウトはこの3室を使って滞在したようだ。  
とすればこうした景色をみたのだろうか



## 二期工事 土留め躯体と庭園



# 屋上庭園と梅の木



令和3年度  
オンライン講座  
第5回  
旧日向別邸 II

05

2021  
6月  
No.05

熱海ブルーノ・タウト連盟

# タウト塾@熱海



- 関わりつた人間像
- 第一期工事
- 第二期工事

No.05 END